

スポーツを通して共生社会を実現していきたい――

障害の有無に関わらず、一緒に楽しめる場所「インクルーシブスポーツクラブ」を立ち上げた細田さん。仲間同士の相互作用を大切にしながら、スポーツなどを取り入れて活動しています。

【じゃあ、みんなでやろう！】

特別支援学校で教員を務める細田さんは、誰もが生涯スポーツを楽しめる場所をつくりたかったと話します。

「障害のある生徒たちに体育を教える中で、卒業後もスポーツを続けられる場所がほとんどないことに、ジレンマを抱えていました。そんな折、昨年の東京パラリンピック閉会式のテーマ『調和の取れた不協和音』から、みんなと一緒にやればいい！インクルーシブな考え方の大切さを実感。誰もが笑顔でいられる場所をつくりたくて、昨年10月にクラブを設立しました。活動は毎月1回、主に市内小学校の体

育館で行います。みんながアイデアを出し合い、色々なことに挑戦していますよ！

【ボッチャへのこだわり】

「ボッチャは、手のひらサイズの球を『ジャックボール』と

とも魅力です。8年前、初めて配属された学校で競技のことを知りました。翌年、体育主任として本格的にボッチャをやるうと思いい、東部で開かれたイベントに参加してみ

した。そこで、オホカ村村英孝さん



インクルーシブスポーツクラブ 代表
ほそだしろう
細田翔生さん(中溝町)

チームワークの大切さを、生徒と分かち合うことができました。この経験から、クラブでは毎回、ボッチャを取り入れるようにしています！

【誰だって輝けるから】

「クラブの目標は、障害者と健常者が歩み寄り、感じて、学び合うことです。仲間同士が助け合い、ハンディキャップやバリアを解消するのはもちろんですが、それ以上に、みんながアイデアを出し合い、主体的に動くことを大切にしています。障害の有無に関係なく、ここでの経験を生かして、一人一人が自分らしく輝ける人生を歩んでほしいと思います。だから、特別扱いはいしません。役割も平等に分担します。そういった居場所をつくることで、地域から共生社会を実現していきたいです。自分自身もすごく楽しいし、仲間たちも笑って活動しています。これからも、たくさんの人と関わり合っていけたらうれしいですね！
みんなが生き生きと暮らせる社会へ。その思いは、このまちに息づいています。」



ボッチャに挑戦するメンバー(活動の様子は、クラブのインスタグラムから)

Shimadajin File #128

島田
Story 人田